

「令和6年度 地域支援センターささっこ 特別支援教育研修セミナー」を開催しました。



7月25日(木)に「令和6年度 地域支援センターささっこ主催 特別支援教育研修セミナー」を開催いたしました。講師としてお招きいたしました福島県立医科大学看護学部 講師 佐藤 利憲先生のご専門は、こどものメンタルヘルスに関わること、発達障害のあるこども・家族のサポート、子ども・子育てサポート、子ども・家族のグリーフサポートを行っており、「生きづらさを抱える子どもたちへの支援～子どもたちの声・SOSをしっかりと受け止めるために～」の演題で御講演をいただきました。

佐藤先生の御講演は、こころの健康に関連する様々な事象の中から、「不登校」「自傷」「死別」の3つの例題から、私たちが支援や教育活動の中で子どもに相談されたらどのような対応、言葉掛けをするかそれぞれが考えるワークから始まりました。様々な考えや対応がある中で大切なことは、「援助希求能力の芽を摘まないこと」「個人の価値観や基準を押し付けない誠実に向き合う他者であること」「話を聴くポイントとして、先入観を持たず、自分の思いと分けて考えること」等、生きづらさを抱えた子どもへの支援・対人支援の基盤となる大切なことをたくさんの事例を交えてお話いただきました。子どもの思いを尊重しながら、受容、傾聴、共感し、丁寧な関わりを積み重ねながら信頼関係を築いていくことの大切さを改めて考えさせられた貴重な時間となりました。

講演後、参加者からは、「生きづらさを抱えた子どもへの支援は特別支援教育に必要なことだと感じた。その中でも、自分の価値観や基準を押し付けないことが大切と教わり、自分の支援方法を振り返りながら学んだことをこれからの子どもたちの関わりの中で生かしていきたい。」「目に見える行動だけに意識が向きがちですが、その奥にある本当の思いや理由を聴き取り、理解できるように関わりたいと思いました。」等、たくさんの感想が聞かれました。

佐藤 利憲先生による御講演の様子



立医科大学 看護学部 講師 佐藤 利憲先生



来校・オンラインでの参加者は、小学校・高等学校・特別支援学校の校長、養護教諭、教諭、寄宿舎指導員など21名の方にご参加いただきました。質疑応答では様々な事例にたくさんのアドバイスをいただきました。